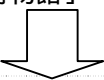
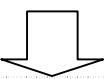
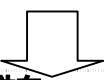



## 博物館建設目的の変遷と先進事例

博物館界全体の動向	全国的な状況	三重県の状況
<b>《第一世代》</b> 「国宝や天然記念物など、希少価値を持つ資料(宝物)を中心に、その <b>保存</b> を運営の軸とする古典的博物館」 	1951年(S26) 博物館法施行	1953年(S28) 三重県立博物館開館
<b>1960年代末~ 《第二世代》</b> 「資料の価値が多様化すると同時に、その資料の <b>公開</b> を運営の軸とする現在の多くの博物館」 関心を持っている人が対象 	1968年(S43) 明治100年記念事業を背景として、この頃から博物館ブーム(県立博物館が多く開館)この時期の博物館、国立博物館のミニチュア版的な博物館が主。 1973年(S48) 公立博物館設置基準つくられる さらに博物館増加(「博物館王国」)	
<b>1980年代前後~ 《第三世代》</b> 「社会の要請に基づいて、必要な資料を発見し、あるいはつくりあげていくもので、 <b>市民の参加・体験</b> を運営の軸とする博物館」に向けた模索が始まる 関心薄い人が対象 	市民参加型の運営の先駆的な取り組み 地域と結びついた住民参加型の博物館活動 平塚市博物館 市民とともに活動する博物館 大阪市立自然史博物館	1982年(S57) 三重県立美術館開館 1986年(S61) 「三重県における博物館構想」答申 1989年(H1) 斎宮歴史博物館開館
<b>近年の動向 ~「第四世代」の博物館 模索する動き~</b>		1993年(H5) 三重県センター博物館基本構想公表 1997年(H9) センター博物館計画、ゼロベース見直し
<b>参加型の中身が深化</b> → ~生涯学習の拠点として、展示中心の参加型から博物館活動全般への参加型へ~	利用者主体の博物館活動 滋賀県立琵琶湖博物館(H8開館) 人の自然の共生博物館 兵庫県立人と自然の博物館(H4開館 H12新たな博物館構想を策定)	
<b>学校校教育との連携</b> →	学校教育との連携を強化した博物館活動 美濃加茂市民ミュージアム(H12開館)	
<b>評価システムの導入</b> →	自己評価システム 静岡県立美術館(H17~)	
<b>地域づくりとのリンク</b> →	NPOとの協働運営(「萩まちじゅう博物館」) 萩博物館(H16開館)	
<b>ユニバーサルミュージアム</b> →	誰もが楽しめる博物館を目指す活動 国立民族学博物館の取り組み(H18)	
<b>デジタル技術の活用</b> →	デジタルアーカイブによる博物館ネットワーク 東京大学総合研究博物館(H8) NPO法人西日本自然史系博物館ネットワーク(H12~)	
<b>これからの博物館 ~さらなる「第五世代」へ~</b>  など		

世代別整理は、伊藤寿朗氏(同氏『市民のなかの博物館』吉川弘文館、1993年)による。